

第4回浜田圏域県管理河川に関する減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 : 令和元年5月31日(金) 10:30~12:00

2. 場 所 : 江津市役所 別館 江津市職員会館会議室

3. 出 席 者

(協議会委員)

浜田市 : 浜田市長(代理 副市長)

江津町 : 江津市長(代理 顧問)

国土交通省 : 浜田河川国道事務所長

気象庁 : 松江地方気象台長

島根県 : 浜田県土整備事務所長

(オブザーバー)

国土交通省 : (欠席)

島根県 : 防災部防災危機管理課

島根県 : 土木部河川課

4. 挨 拶 : 協議会委員

5. 議 事

- ・「浜田圏域県管理河川に関する減災に向けた地域の取組方針のフォローアップ」
について

6. その他(情報提供)

- ・「防災気象情報に関する情報提供」
- ・「避難勧告等に関するガイドライン改定版の公表について」

7. 議事結果

平成30年度の実施状況報告、令和元年度の実施予定、今後のスケジュールについて協議会に諮った。その結果、協議会構成員の賛同を頂くとともに、減災に向けて各機関が協力して取り組みを推進していくことを確認した。

8. 意見交換概要

【浜田市副市長】

想定最大規模降雨の洪水浸水想定区域図の対象降雨について、八戸川(471mm/24hr)と敬川(609mm/24hr)で異なる理由は？

また、現行(河川整備の基本となる降雨)に比較して、どの程度降雨量が大きくなるのか？

【県河川課】

流域の大きさによる違いである。一般に大きい流域では、降雨量が平均化されるため小さくなり、小さい流域では局所的な豪雨を捉えるため降雨量が大きくなる傾向にある。

現行との降雨量の比較は、河川毎に違いがあり一概に言えないが、2倍程度増えている河川もある。

【浜田市副市長】

平成29年7月豪雨の際、浜田市（周布川）でホットライン～避難勧告等を発令しているが、タイミングに遅れ等は無いか。

【県河川課】

この時は、短時間に纏まった雨が降り、1時間に95cmと急激に水位上昇したこともあり、避難勧告等の発令は難しい状況であったと思われるが、水位超過～ホットライン～避難勧告等の発令が迅速に行われた好事例と思っている。

また、今後は河川監視カメラの追加整備等を予定しているので、これらも避難情報の判断材料に活用していただきたい。

【江津市顧問】

タイムラインに関して、昨年の豪雨のこともあり避難指示のタイミングが重要と感じている。昨年度作成した県管理河川のタイムラインがレベル4の段階で避難指示が発令される計画になっているか。

【事務局】

現時点では昨年度から大きな変更点はない（レベル4段階で避難指示を発令する計画となっている）。

【河川課】

この度、次期水防情報システムの開発を行い、スマートフォン用サイトの追加や画面構成の改善を行ったが、多くの方に使っていただくことが大切と考えている。周知用のチラシも作成しているので、地域で防災学習会等、機会があれば周知の協力をお願いする。

また、要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援も重要な取り組みと考えている。水防法が改正となり対象施設の計画作成が義務となったが、県内の作成率は未だ低い状況。今年度は江津市で施設管理者向けの説明会を開催する予定であるが、早期に計画の作成が進むよう関係機関の協力をお願いする。

【浜田市】

浜田市では県管理河川に河川監視カメラを整備し、市のホームページにサイトを設けて一般に周知している。同サイトには島根県の水防情報システムのリンクを貼るようにしているが、県のシステムにも浜田市のサイトのリンクを貼っていただくことが出来ないかご検討をお願いする。

【河川課】

前向きに検討させていただく。

【浜田河川国道事務所長】

洪水浸水想定区域図が示されたところであるが、発災後の復旧に繋がる排水計画の検討や排水施設の充実について、予算的な制約もあるが、研究しておく必要があると考える。

【江津市】

警戒レベルを用いた避難勧告等の発令について、昨年7月豪雨では、八戸川で堤防越水等による浸水被害が発生しているが、新たなガイドラインでは、警戒レベル5（災害発生情報）を発令する内容と考えて良いか。

【防災危機管理課】

そのように考えていただきたい。

この災害発生情報は、小石が落ちるような小規模な被災ではなく、命に係わる重篤な災害が発生した場合と位置付けられている。